

秘書学論集

平成8年3月

目次

〈報告〉

後期中等教育における秘書教育

— 短期大学の今後の展開のために — ……………有働 壽恵 3

秘書実務教育における交流分析の応用 (その2)

— 接遇対話演習結果の分析と授業案の再構築 — ……………菱田 陽子・野口喜美代 17

〈研究ノート〉

短大秘書教育と企業ニーズの整合性……………北崎 寛 37

エンドユーザ・コンピューティングの進展と秘書教育における情報教育……………戸田 昭直 49

上司一部下の関係が秘書のモチベーションに及ぼす影響……………大津 洋子 63

〈研究助成報告〉

秘書実務教育の新提言

— 現状の分析と問題点 — ……………三宅 耕三・山野 邦子 75

今林 宏典 山本 慶子

岡田 聚 渡辺 和枝

中村 寛志

No.14 1996

日本秘書学会

昨年12月22・23の両日、編集会議を行いました。11編の応募がありましたが、残念ながら、報告2本、研究ノート3本の計5本しか採択に至りませんでした。

論文は、やはり何か新しい発見なり、提言がないと採択できません。

報告は、主として実践した記録（実践報告）あるいは調査したものです。

研究ノートは、論文になる萌芽が見出せるものです。

論文が一番上位であることは言うまでもありませんが、報告、研究ノートはそれぞれ分野、機能が違いますので、どちらが上位ということはありません。

学会の名称変更が話題になっていますが、応募論文の中にもそういった傾向のものもありました。研究ノートで採択になった戸田先生の論稿とあと2本、学内LANやネットワークといったコンピュータをめぐる変化が読みとれました。また、

北崎先生の論稿とあと1本、企業における秘書の変化を述べています。

応募論文で採択に至らなかったものは、総じて次のような点に欠陥があったようです。

①気負が目立って、あれもこれも入れようということになり、オムニバス論文になっていることです。②着想はよいのですが、中だるみして解説に終っている点です。③面白い調査ですが、調査対象の人数が限られており少数のため信頼度が低くなっている点です。④興味ある実験ですが、現実といささかズレている点がありました。

今後応募なさる方も、こういった点を注意して下さい。

企業における秘書及び事務職に著しい変化が出て来ています。この事態を直視し、それらの資料を集積・分析することによって、新しい道を切りひらいていきましょう。

〔福永弘之記〕

■編集委員 福永弘之（委員長）、堀江 光、田中篤子、佐藤啓子、中佐古勇、森貞俊二、佐藤東九男、大宮 登

秘書学論集
No.14 1996
平成8年3月発行

発行 日本秘書学会 編集委員会
〒004 札幌市豊平区清田4条1丁目4番1号
静修短期大学内
TEL(011)883-2490
制作 (株)アイワード
TEL(011)241-9341(代)